私立短期大学図書館協議会

北海道地区協議会通信

No.46 2025年 3月31日

釧路短期大学附属図書館(編集) 私短図協北海道地区協議会(発行)



第64回(令和6年度)北海道図書館大会 プログラム②

生成AIと情報の行方

帯広大谷短期大学地域共生学科教授 大 平 剛 氏 講演 令和6年9月12日(木) 於:札幌コンベンションセンター

* * * * * * * * * * * * * * *



【報 告】北海道武蔵女子大学・北海道武蔵女子短期大学附属図書館 別 宮 玲 子

第64回北海道図書館大会にて、北海道地区協議会が担当したプログラム②では、帯広大谷短期大学の大平剛教授を講師に迎え、「生成AIと情報の行方」についてご講演いただきました。

大平教授は日本近代文学の研究者で、図書館学の教員としてもご活躍です。文学研究には情報検索や処理が不可欠で、生成AIの教育的活用が重要な課題であることから、その進化と課題について深い洞察を語ってくださいました。

生成AIとは、機械学習で蓄積された知識をもとに創造的なタスクを処理するシステムであり、対話や翻訳、プログラミング、画像生成など多様な分野で注目を集めています。しかし、それは人間のように思考しているわけではなく、学習データを基に文脈に沿って情報を出力しているに過ぎないと強調されました。

生成AIの需要の背景には、情報化社会での膨大な情報量の増加があります。生成AIは、忙しい現代人の情報処理を効率化し、知識へのアクセスを容易にする存在となっています。

一方で、多くの懸念点のうち、特に深刻な問題として、誤った情報を生成する「ハルシネーション」が挙げられ、生成AIの出力が必ずしも正確ではないことを理解する必要があ

ると述べられました。また、著作権やプライバシーの侵害、雇用への影響、電力消費や学習データの不足といった課題があるため、慎重な活用が求められています。

令和5年以降、生成AIはさらに進化し、外部のWeb情報やアップロードされた資料を参照することで信頼性が向上しました。画像やPDFを理解する「マルチモーダル対応」や、利用者の目的に合わせたパーソナライズ化が進展し、特定用途に応じたAI活用が一層簡便になった点も紹介されました。

この技術進化により、図書館統計データのグラフ化や歌詞の解釈を人間と対話をするように相談できるなど、実践的な応用が可能になった様子も実演してくださいました。

講演の最後には、生成AIの利便性に頼り過



大平剛先生

ぎると、人間の思考力が低下する恐れがあるとの警鐘を鳴らされました。そのため我々は、生成AIを創造的に活用する姿勢が大切であると締めくくられました。

生成AIの可能性と課題を理解し、未来に向けて主体的に正しく活用していく重要性を感

じる機会となりました。

大平教授の穏やかな口調により、会場は終始和やかな雰囲気に包まれていました。生成AIの実演では、ユーモアを交えた説明に聴衆から笑いが起こり、教授の親しみやすい人柄が感じられる講演となりました。

北海道地区協議会令和6年度研修会

実践報告「高校図書館の可能性―思考を誘発する試み」&ゼミ

講師:北海道武蔵女子短期大学非常勤講師 成田 康子氏

令和6年9月14日(土) 於:北海道武蔵女子大学・北海道武蔵女子短期大学附属図書館

【報告】釧路短期大学附属図書館 菊地 正明

研修の開始を待つ間、スクリーンには実践報告のタイトルとともに「本当の高校生活は図書館からはじまるらしい」の一文を配した札幌南高校図書局員お手製の利用啓発ポスターが投影されました。実体験から滲み出たであろう素敵なフレーズに、彼らを惹きつける図書館がどのような存在であったのか、関心が高まるのを感じました。

おもな話題はその札幌南高校での取り組みで、次の2つの観点からお話いただきました。

①読書環境の整備:着任早々取り組まれたのが、薄暗く自習利用が大半であった図書館のマイナスイメージを払しょくすることだったそうです。無償で手に入れた木製書架や棚、購入した姿見やナイトランプなどを巧みに配置することで、徐々に生徒の足が図書館へと向くようになったのだそうです。

②図書局の活動:まず拝見したのが図書館のしおりでした。館内図や掲載文は図書局員が担当したとのことで、肩肘張らない柔らかなつくりとなっていました。「例年漫然と作り続けているものが、はたして本当にお金を掛けるに見合うものであるのか」との問いかけを受け、紙面一新を決意されたそうです。きっとこの言葉にハッとされた参加者も多か

ったのではないでしょうか。次にご紹介いた だいたのは、図書館報『四面書架』です。そ の編集方針も、定石に囚われない自由闊達な 文章も、局員同士の意見討論によって統率が 図られていたため、編集時における介入は最 小限にとどめられていたそうです。また、「ラ イブ・イン・ライブラリー」は多くの参加者 が関心を寄せたところですが、あれだけ多く の人材を発掘できたのは、生徒との間に日常 的な何気ない会話のやり取りがあったからの ようです。生徒伝いに情報が入ってくること もあれば、生徒を焚きつけてやる気を出させ たこともあったそうです。ただし、成田先生 が積極的に関わられるのはここまでで、発表 者との打ち合わせや会場の設営などは、基本 学生主体で進められていたとのことで、たい へん驚きました。

休憩を挟んで行われたゼミでも、やはり図書局の活動が話題に上りました。イベントを企画すると、つい数字で測ることのできるわかりやすい成果を求めがちですが、成田先生には「それらの活動は図書館のためではなく、生徒一人ひとりのためにあるべき」との考えが根底にあるようです。最低限の助言はするが、押し付けはせず、自身でやりたいことを

考え選択させる。楽しみながら活動に臨み、 そこで積み上げた成功体験が各自の成長につ ながる。たとえ失敗があったとしても失敗で 終わらせない局員相互のフォローも自然と生 まれる。それが図書館の存在意義であり、本 来評価されるべきポイントではないかとのこ とでした。

「このやり方がベストとは思わないし、ほ かの図書館でも同じようにできるとは考えて

いない。その図書館に見合ったやり方を見つ けていくのが司書の役割。つねにアンテナを 張ってください」との激励をいただき、本研 修は終了となりました。

本学のライブラリアン・資料整理アシスタ ントの活動は、良くも悪しくも定例化してお り「はたして、これで良いのか」と逡巡する こともあります。今回の研修を参考に、今後 の方針を見定めていきたいと思います。



令和6年度 各館の活動報告

開館体制変更に伴い新サービスを始めました 带広大谷短期大学附属図書館 水 野 有 子

本学が令和6年10月より土曜日を所定休日 と定めたことに伴い、当館の土曜開館も休止 となりました。ただ、土曜開館日は学外から の〈お得意さま〉が一定数いたため、不利益 が生じないよう手立てを講じることとしまし た。

それが「WEBレファレンス受付フォーム」の 開設と「音更町図書館での資料受け取りサー ビス」です。

レファレンス自体は以前から電話やメール でも受け付けていましたが、いざ資料を借り るとなった場合、平日に来ていただくか他館 から相互貸借を申し込んでもらうことになり ます。ここに、当館からもっとも近い公共図 書館「音更町図書館」で資料を受け取るとい う選択肢を加えました。土日はもちろん曜日 によって夜間も開館している音更町図書館は、 平日日中の来館が難しい方にも利用しやすい 機関です。

相互貸借との大きな違いは2点です。特に事 項調査や文献案内の場合、求める情報に対す る認識のずれや未掲載などの空振りが生じる

ことがありますが、本サービスは貸出館とな る当館が直接利用者とやりとりをするため、 それらを最小限に抑えることができます。ま た2館の距離が近いので、郵送に依らず直接 運搬でスピーディーに対応できるのも特徴で す。書誌を特定されない形で預けるなど留意 事項はあるものの、当館の資料を求める方が 少しでも利用しやすいよう工夫しました。

地域の方にとって大学図書館は、公共図書 館と比べるとややハードルが高く、「どうし ても必要な調べもののためにわざわざ出向く」 ということが少なくありません。そのためレ ファレンスもより専門的であることが多く、 課題解決へ高い期待が寄せられます。「ここ なら答えが見つかるかも」と利用してくださ る方へできることを、これからも模索してい きたいと思います。



月替わりの企画展示はじめました 釧路短期大学附属図書館 菊 地 正 明

令和6年6月末日をもって図書館職員1名が 退職の運びとなりました。着任からわずか1 年2か月の短い期間ではありましたが、館内 利用図書の返却台設置や什器配置場所の見 直しなど、利用者の利便性を追求したアイ デアをいくつも提案し、実現へと導いてく れました。そのひとつが月替わりの企画展 示です。各フロアに展示スペースを捻出し、 児童コーナー「でんでん」では、季節や行 事に関すること。飲食も可能な第2閲覧室で は、生活の幅が広がるような暮らしの知恵 やスポーツ・芸術に関すること。そして、 メインフロアの第1閲覧室では、その折々に 学生が興味を持ちそうなタイムリーな話題 を取り上げることとしました。利用促進の 呼び水的役割を果たす一方で、棚に埋もれ た良書に再び光を当てる絶好の機会にもな っています。

また、本年度は「教職員のオススメ本」 と題した特別展示も行いました。本企画では、マンガや小説など娯楽性の高い本を中心としたお気に入りの一冊を教職員自らの推薦文で紹介いただき、館内に掲出。所蔵のない資料については、可能な範囲で貸出の協力を仰ぎ、利用希望があった際は図書 館職員が学生と教職員との橋渡し役を担いました。本企画を実施するにあたり、①新たな切り口から学生の興味・関心を誘発し、読書欲を喚起する。②本を媒介とした新たなコミュニケーション機会を創出し、学生・教職員間の距離を近づける、とのおらいを設定しました。初の試みにつき、どでもな反響が得られるか予想がつかず、賛同される教職員にのみ執筆を依頼しましたが、おおむね好意的に受け入れられたように思います。

牛の歩みも千里。他館の取り組みから二 歩も三歩も遅れをとっていますが、一歩一 歩着実に歩みを進めていこうと思います。



附属図書館入口に掲出した推薦文

令和6年度の図書館活動について 國學院大學北海道短期大学部図書館事務室 西村 千夏

令和6年度は、学内ワークスタディ(学内 アルバイト)の学生による展示を2つ開催し ました。

1.「國短図書館総選挙~あなたの推し本は何ですか?~」

本学学生と教職員を対象に、3つのテーマ 「①イチオシの本、②思い出の本、③授業で 役立つ本」に沿った推薦文を募集。本を読ん でみたくなった推薦文へ投票をする一般投票 の結果をもとに、各テーマ上位3位までの推 し本と推薦文を展示するという企画です。

図書館に訪れた学生は、学生同士の推薦文は勿論、教職員の推薦する推し本が気になる様子で、興味深そうに確認する姿が見られました。また、推薦文は匿名での貼り出しであ

ったため、この推し本はどの教職員の推薦であるかを予想しながら盛り上がる学生の姿も 見られました。

2.「目から耳から楽しめる!物語×音楽の すすめ展」

物語から着想を得た楽曲と、その元となった物語の紹介を行う企画です。

全集など、平置きにした際に少々わかりに



展示の様子

くい表紙の本は、学生手作りのカバーをかけて見栄えのする工夫を凝らすなど、力の入った展示となりました。

また、Instagramの投稿機能を利用し、実際に曲を聴きながら本の紹介を見ることができるなど、学生ならではの方法で、見事に目だけではなく、耳でも楽しむことのできる展示が作り上げられました。

コンセプトは「音楽を通して新たな本と出会う」でしたが、私自身も本から音楽へ、音楽から本へと繋がる新たな道を拓くきっかけとなりました。

本学図書館のワークスタディ学生は、現在 4名で活動中です。カウンター業務だけでな く、上記のようなイベントの企画・運営など も行っております。

今後も様々なイベントを開催していく予定ですので、その際は是非足をお運びいただけますと幸いです。

令和6年度の活動動向 拓殖大学北海道短期大学図書館 堤 香 苗

令和6年度は、平日の開館時間を9:00から 17:00と1時間短縮することになりました。

今年度の大学祭図書館特別企画は1日目に 宍道勉氏(鳥取短期大学司書課程元教員)考 案の読書プログラム「ドングリとヤマネコ裁 判」を本学学生・教職員ほか学外の方の参加 で実施しました。図書館の本棚を見て「読み たくない」本を発見し、なぜ読みたくない かを発表しあう中でその本への興味・関心が 沸き、参加者の総意は「読みたい本」と「と が下る」など、「本を知り人を知る・人を 知り本を知る」展開となりました。2日目は 保育学科穴水ゆかり准教授による「ようこそ! 『赤い鳥』の世界へ」と題した講話を開催しました。鈴木三重吉が創刊した『赤い鳥』と その時代の子どもの文化・児童文学に触れ、 本学保育科(設立時の学科名)の設立と本学図書館が『赤い鳥』復刻版を所蔵している経緯を当時の保育科教員の願いと穴水准教授の現在の本学学生に向ける眼差しに重ねた講話



第58回黎明祭図書館特別企画 「読書プログラム:ドングリとヤマネコ裁判」

となりました。

恒例となった図書館ボランティア学生の選書ツアーを令和6年度も実施。3名の学生によって選定された本はさっそく学生の関心を集めています。

また図書館ボランティア学生は「図書館ボランティアお薦め料理Book」を企画。各自が 推薦する料理の本から選んだ一品を料理・試 食し「食レポ」を添えて展示しました。

1月、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを利用者へ提供開始しました。

第12回本のPOPコンクールには5名5つの応募作品を図書委員会で審査し、1月に記念品贈呈式を行いました。全ての応募作品を3月末まで図書館内に展示しています。

令和6年度·日誌

—2024年—

●4月26日

北海道地区協議会第1回役員会・総会開催 出席4館/委任状3館

- ●5月16日~17日 私短図協全国理事会・総会出席
- ●6月25日

令和6年度第1回北海道図書館連絡会議兼第 64回(令和6年度)北海道図書館大会運営 委員会(第4回)会議出席

●6月7日 総会記録及び会費請求書送付

●9月12日~9月13日

第64回北海道図書館大会出席(会場:札幌コンベンションセンター、テーマ:コミュニティーとしての図書館を考える)。プログラム②「生成AIと情報の行方」の企画・運営を担当

●9月14日

私短図協北海道地区協議会令和6年度研修会開催(会場:北海道武蔵女子大学・北海道武蔵女子短期大学附属図書館、テーマ:利用者と共につくる図書館~司書がはぐくむ活動の場~)

●12月3日

日本図書館協会事務局へ「私立短期大学図書館協議会北海道地区協議会本年(2024年) の動き」を送信

●12月4日

令和6年度第2回北海道図書館連絡会議兼第 65回(令和7年度)北海道図書館大会運営 委員会(第1回)会議出席

●12月24日

北海道地区協議会第2回役員会開催 (メール会議)

—2025年—

●1月27日

日本図書館協会事務局へ「『各県別概況 北海道』北海道内短期大学図書館の概況 (2024年1月~12月)」を送信

●2月13日

令和6年度第3回北海道図書館連絡会議兼令和7年度北海道図書館大会運営委員会(第2回)会議出席

●3月31日

「北海道地区協議会通信No.46」発行

令和6年度 会長及び役員館

- ②会 長 河村 芳行(北海道武蔵女子 大学・北海道武蔵女子短期大 学附属図書館長)
- ○幹事館 帯広大谷短期大学附属図書館
- ○監査館 釧路短期大学附属図書館 拓殖大学北海道短期大学図書館
- ○事務局 北海道武蔵女子大学・北海道 武蔵女子短期大学附属図書館